

むかし ばなし

第63話

苧環の糸

おだまき

文・山崎しげ子

糸は戸の鍵穴を通つて、三輪山まで続いていた。これによって若者の正体は三輪山の大物主大神であり、姫のお腹の中の子は神の子であることが分かつた。

その子は、大田田根子と名付けられた。

その子は、大田田根子と名付けられれた。

その子は、大田田根子と名付けられれた。

静寂と神々しさに包まれた、わが国最古の神社とされる。大神神社の摂社で、「若宮さん」と呼ばれ、大田田根子を祀る若宮社（大直禰子神社）。石段脇に、「おだまき杉」の古株が今も残る。物語に登場する活玉依姫の苧環の糸がこの杉の下まで続いていたという伝説も残されている。

良盆地。その東南に、円錐形のひときわ秀麗な姿を見せる三輪山。神が鎮まる神聖な山、また、人々の平和と豊かな生活を守ってくれる特別な山として遠い昔から信仰されてきた。

神様の名前は大物主大神。今回はその神様の不思議な恋のお話。

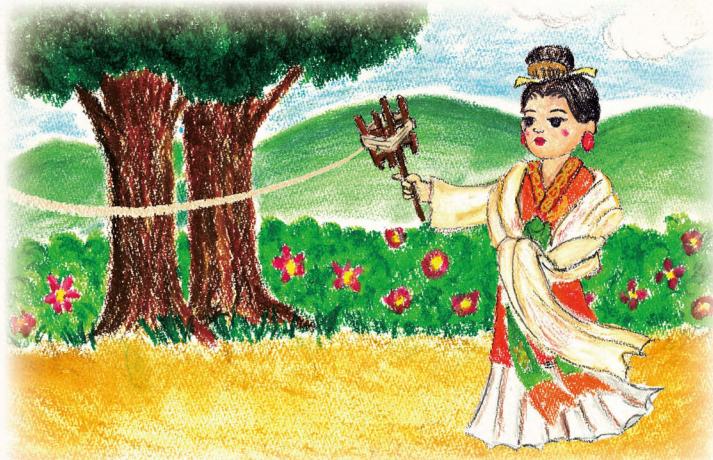
憂えた天皇の夢枕に、大物主大神が貴人の姿で現れ、「大田田根子に私を祭らせれば、災いもおさまり、國も平安になるであろう」と告げた。

早速、早馬を四方に出して探すと、茅渟県陶邑（今の大坂府堺市あたり）にいることが分かり、天皇のもとにお連れした。

姫の両親は、その若者の素性を姫にたずねたが、姫も分からぬまま。そこで両親は、若者が訪ねてきたときに、床のまわりに赤土をまき、芋環と呼ばれる糸巻きの糸を針に通して若者の着物の裾に刺すよう教えた。

翌朝、糸のあとをたどつていくと、天皇はその大田田根子を神主として大物主大神をお祀りしたところ、疫病はたちまち収まった。五穀は豊かに実つて農民は皆喜んだという。

三輪山麓にある大神神社では本殿ではなく、拝殿から三輪山を拝するという神祀りの原初の形を今に伝える。



物語の場所を訪れよう

大神神社 (桜井市三輪) へは…
JR三輪駅より東へ約700m



問 大神神社 ☎ 0744-42-6633

大神神社と祭り

神の山とされる三輪山を拝する大神神社の拝殿や三ツ鳥居は、国の重要文化財に指定されている。また、摂社である若宮社（大直禰子神社）の本殿も国重要文化財で、その鳥居の前には「おだまき杉」が屋根に守られ根元だけが残る。

大神神社は年間を通して多くの神事が通じて行われる。1月から行われる火の祭典（繞道祭）で大和の正月は明けるといわれる。

1日午前0時から行われる火の祭典（繞道祭）で大和の正月は明けるといわれる。